

F-wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：「身近なこと」から続けてつながる国際交流



令和に入り6年が経ちました。近年様々な事があり日本だけではなく世界の様子が少しずつ変化していくように感じています。そのような中で、コツコツと変わらずに続けている活動もあります。今回は10年以上、インドネシアと日本の学生との懸け橋となる活動を行っている『湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会』（以下委員会）の代表を務める和賀井稔さんにお話を伺いました。

団体活動の中心にあるのが「平和で持続可能な社会をつくること」とのこと。その中でインドネシアとの交流を中心に活動をされています。「インドネシアに限らずアジアでは貧困に苦しむ人々の暮らしがあるのが現状です。このことを多くの方に

知っていただき、また共感をしていただくことで相互理解が深まります。その上で、自分のできることで活動への参加や貢献をしてくださると嬉しい。」と和賀井さんはおっしゃいます。

3つのプログラム

委員会の活動は主に3つから成っています。1つは「湘南プロジェクト」ここ藤沢にインドネシア国立パジャジャラン大学日本語学科の学生（インドネシア在住）を招聘し、ホームステイで受け入れ、日本の暮らしを体験する活動です。また市内の中学校を訪問し、日本語で現地の暮らしや文化について紹介する活動もしています。このことは日本語学科の生徒さんにはとても良い学びになるそうです。（次ページに続く）



「身近なこと」から続けてつなげる国際交流

2つめは「平和交流プロジェクト」招聘中の学生たちに広島、知覧、沖縄の地を訪れる機会を作る、いわゆるスタディツアーを実施しています。訪問先で感じたことなどを大学に持ち帰り、その後の学びに生かしてくれているそうです。

3つめは今回特に取り上げたい「絵本で子どもたちの世界をひろげるプロジェクト」です。これは以前、委員会代表の和賀井さんが日本の中学生から「アジアには貧しい人たちが多くいると聞いた。お金は自分たちに多くは出せないと思う。それでもその方々に何かしてあげたい。」と言われた事がきっかけで始まった活動とのことです。中学生が活動に参加してもらうために「誰にでもできる事」で参加する機会をつくるのができればとの思いから企画が進んでいったそうです。



仕組みとしては、まず日本語の絵本を藤沢や湘南地域の知人などからいただき、インドネシアに送ります。現地の協力者である学生たちが、日本語をインドネシア語に翻訳。絵本に翻訳した内容の貼り紙をして、子どもたちの手に渡してもらいます。続けていくうちにだんだんと手順が整理され、今では現地へメールで日本語のテキストを送り、翻訳したテキストを送り返してもらい、日本で絵本に貼り紙をし、再び現地へ送るといった仕組みへと変化してきたそうです。

またインドネシアでは前述したパジャジャラン大学のあるバンドウ市内の孤児院（育児に関する問題などから預かる子どもが増えているそう）に学生たちが出向き、送られてきた絵本の読み聞かせを実施しているとのことです。この活動は他の大学にも広がりを見せ、協力をしてくれる仲間が増えているのだとか。

また日本を訪問した際に見学した「子ども食堂」や「保育園」をお手本に、現地の子どもたちとともに調理をして食事をする事や、窓や壁にかわいい動物の絵を貼ることで明るくやわらかい雰囲気の間づくりをする等様々な事に挑戦しているそうです。「プロジェクトがきっかけになり様々な広がりが出ています」と和賀井さん。長年続けてきた活動の成果を嬉しそうに話してくださいました。



地域に向けて発信したい！

「絵本を中心とした活動を更に地域の方々にもご理解いただける様に進めていきたいと考えています。2月24日に『市民活動プラザむつあい』との共催で交流イベントを実施します。（※「プラザ de カフェ 絵本でつなぐインドネシアと藤沢」4面参照）インドネシアからは大学生と活動をサポートしてくれている卒業生がやってきて、文化や暮らしの紹介を大学で学んだ日本語で発表してくれます。また、積極的に活動に取り組んでいる藤沢市内の中学生から、交流事業や絵本の作業の様子などもご紹介していきます。ぜひご参加ください！」と和賀井さん。

身近にある「絵本」がつかない国際交流、できることから何か始めてみませんか。

（取材と記事作成：市民活動プラザむつあい）

団体紹介

湘南とアジアの若者による 未来創造事業実行委員会

【設立】 2014年4月

【代表】和賀井稔

【URL】

<https://fujisawa-npo.jp/dantai/detail.php?id=21129>



2014年より活動を始め10年が経ちました。

団体としてはコロナ禍などで現地の学生を招聘ができず、何もできないと悩んでいた時期もありました。ようやく人々が動き出しましたが、以前の様にはなっていない事も多く感じます。そういった中で続けてきた活動を今後も持続していくための検討をしています。ぜひ皆さまのお力添えいただければ幸いです。



内閣府では、3年に1度「特定非営利活動法人に関する実態調査」を実施しており、直近では令和5年度（2023年度）に実施され、同年度末となる2024年3月28日に調査結果が公開されました。今回のNPOTIPSでは、同調査の結果から、現状NPO法人の収益構造がどういった特徴を持っているか、お伝えします。

■令和5年度実態調査から

認証法人の収益は81.4%が「事業収益」であり、12.3%が「補助金・助成金」でした。会費と寄付金を合わせても4%程となっています。行政や企業からの委託等を含めた「サービスの受益者から対価をいただく」というのが収益の中心で、補助金・助成金はそれを補う収益という位置づけになっているのがスタンダードであるようです。認定法人は48.2%が「寄付金」で24.6%が「補助金・助成金」、24.2%が「事業収益」でした。認定法人になる際にパブリック・サポート・テスト（PST）という寄付に関連する要件があり、寄付をい

ただきやすい活動をしている法人が認定取得をしている割合が高いことが結果に表れた形になります。

■平成25年実態調査との比較

平成25年（2013年）は、上記調査のちょうど10年前となっています。認証法人では同年、「事業収益」が55.3%、「補助金・助成金」が16.7%でした。認定法人では「寄付金」が52.2%、「補助金・助成金」が14.5%、「事業収益」が30%となりました。

令和5年度との比較で特徴的なのは、認証法人の事業収入割合の増加と、認定法人の補助金・助成金割合の増加で、特に前者は大きな上り幅となっています。

当施設登録団体のうち、認定NPO法人はわずかの割合で、ほとんどは認証法人となります。10年前と比較すると、NPO法人も収益を自力で稼がなければいけない傾向は強まり、翻って支援対象者などの自己負担傾向も強まっていると言えます。助成金等の割合についても認証法人

で減少・認定法人で増加していることもあり、より公益性が伝わりやすく寄付を集めやすい活動が、助成金に採択されがちになっています。

皆様の団体では、こういった収益構造になっているのでしょうか。こういった調査結果も、計画を立てる際や予算づくりには是非ご活用ください。関連するご相談等ございましたら、推進センター・プラザむつあいままでお問い合わせください。

<https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/npojittai-chousa>



←特定非営利活動法人に関する実態調査



「社会教育」と「市民活動」の深い関係

12月から1月にかけて民間助成金の選考のための申請書がどさっと届いた。明らかに申請数は昨年度よりも多いことがわかる量だ。読み進めていくと、2020年以降に発足した団体の申請がいくつかあり、目に留まった。勿論、旧知の組織の活動はしっかりストーリー性があり、期待できる申請書は多い。2019年度末から始まった、新型コロナの蔓延による行動制限から丸2年が経ち、温めていたプランを実行に移す機運の高まりを申請書のページを繰りながら感じた。桜の咲くころにこの活動の応援ができると思うと少しワクワクしてきている自分がそこにいる。楽しみなことが少し先にあることは精神衛生上とても良いことなのがよく分かった。

最近、教育心理学という学びのジャンルを教えてください。学ぶことには、不安があり、その不安が人を発達させる。しかしながら不安のままでは学びを躊躇することになるため、その学びの不安を払拭するために、取り組む環境をつくるのが大事になる。そして、学び合い、支え合う仲間が必要で、更にその練習も必要とのこと。少しずつ動き出す気配を感じる時期だからか、ボランティア育

成研修を依頼されることが多くなってきた。これも市民が自主的に動き出す環境づくりなのかもしれない。ある大学のボランティアセンターに、ボランティアの相談をしたところ、コロナ禍以降、ボランティアを希望する学生が少なくなって、少し頑張ってPRしていこうと思っている。とのお返事が返ってきた。すっかり変わった学習環境での学びが続いていて、抜け出せない学生も多いようだという。対面での学びに不安が隠せない学生もいるとも言っている。一時的な現象であれば良いと思う。私の周りで元気に活動を再開している「オトナ」の皆様のしなやかさは目を見張るものがあり、その先輩各位を見ながら、新規の活動を開始している若い市民活動の担い手に大いに期待している。これからも、学びの環境と活動の環境を両輪で回すことのできるよう、進めていきたい。

新しい年が始まりました。市民活動の動きを今後も精一杯応援させていただきます。(て)

なぜなに

NPO

vol.187



講座・イベントの

ごあんない

イベント

日時

■プラザ de カフェ ～身近な SDGs ～「絵本でつなぐインドネシアと藤沢」 2025年2月24日(月) 13:30～15:30

■出張プラザ de カフェ ～身近な SDGs ～「コーヒーのほろ苦い話」 2025年3月8日(土) 13:30～15:30

■2025 年度ロッカー利用団体募集（一次募集） 2025年2月10日(月)～2月28日(金)

■会議室利用料金の改定 2025年4月1日(火)～

NEW!

支援施設からのお知らせ

■プラザ de カフェ ～身近な SDGs ～ 「絵本でつなぐインドネシアと藤沢」

インドネシアの学生による伝統舞踊の披露、藤沢市内の中学生の発表をはじめ、これまで進めてきた活動内容について発表していただきます。インドネシアから来日される方は日本語がとても上手です。皆さんとの交流の場を楽しみにされています。ぜひご参加ください。

日時：2025年2月24日(月) 13:30～15:30

対象：ご興味のある方

会場：六会公民館 3F ホール

定員：70名(先着順・要申込み) 参加費：無料

主催：藤沢市市民活動プラザむつあい



■出張プラザ de カフェ ～身近な SDGs ～ 「コーヒーのほろ苦い話」

コーヒーを飲みながら、生産地のこと等いろいろ想いを巡らせてみませんか。

焙煎体験もします。

※事前予約。申込期限2月27日(木) 17:00(必着)まで。

日時：2025年3月8日(土) 13:30～15:30

対象：ご興味のある方

会場：長後公民館

定員：20名(先着順・要申込み) 材料費：500円

持物：マグカップ

主催：藤沢市市民活動プラザむつあい



■2025 年度ロッカー利用団体募集（一次募集）

「市民活動推進センター」および「市民活動プラザむつあい」では、2025年4月1日(火)から館内設置のロッカーを利用する団体を募集します。ご利用は、月単位、最長1年(2026年3月末まで)です。利用を希望される団体は、「ロッカー利用申込書」に必要事項を記入し、センターもしくはプラザまでお申し込みください。

また、現在ロッカーを使用されている団体は2025年3月31日(月)までにロッカー内の整理をして下さいますようよろしくお願い致します。

締切 2月28日(金)



■会議室利用料金の改定について

平素より藤沢市市民活動支援施設をご利用いただき、誠にありがとうございます。

藤沢市では公共料金の見直しが進められており、藤沢市市民活動推進センターの会議室も対象となりました。

2025年4月1日より、下記の通り利用料金に変更となります。

・会議室A：1時間 200円

・会議室B：1時間 180円

ご利用される皆様におかれましては、ご理解のほどよろしくお願い致します。



発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00～22:00 火曜休館

※日・祝は9:00～20:00

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢1031 アーバンセンター藤沢 2F

TEL：0466-54-4510 FAX：0466-54-4516

Eメール：f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00～17:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター2階

TEL&FAX：0466-81-0222

Eメール：f-npoplaza@shonanfujisawa.com

編集：認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です！